

第4 企 画

1 企 画

2 岐阜市公立大学法人

1 企 画

(1) 総合政策

持続可能なまちづくりに向け、「岐阜市未来のまちづくり構想」に掲げる岐阜市の将来像やまちづくりの方向性を踏まえ、社会情勢の変化を注視し、的確に対応した施策や事業の展開が必要である。

そのため、特に重点を置いて取り組む「政策のベクトル」を示し、着実に深化させることにより、持続可能なまちの実現を図る。

(2) 岐阜市未来のまちづくり構想

ア 策定経緯

岐阜市未来のまちづくり構想は、本市における総合的かつ計画的な行政の運営を図るための方針である。新型コロナウイルス感染症や人口減少などの課題を踏まえ、いち早く本市の新たな将来像を示し、安心して暮らせる岐阜市を実現するため、「ぎふし未来地図」に代わるまちづくりの総合的な方針として令和4年2月に策定した。

イ 主な構成

(ア) 岐阜市の将来像

2040年頃に「人がつながる創造が生まれるしなやかさのあるまち」になることを目指す。

(イ) まちづくりの基本的な考え方

1. オール岐阜のまちづくり
2. シビックプライドの醸成
3. DXと脱炭素化
4. 持続可能で選ばれるまち

(ウ) 分野ごとのまちづくりの方向性

1. こどもファーストでみんなを笑顔にするまち（教育・子育て分野）
2. だれもが自分らしく健康に生きられるまち（健康・福祉・医療分野）
3. 人をつなぎ、暮らしと環境を守るまち（市民協働・防災・環境分野）
4. 活気あふれる仕事と交流のあるまち（産業・労働・交流分野）
5. 活力と暮らしやすさのあるまち（都市基盤整備・交通・中心市街地活性化分野）

(エ) 行政経営の視点

1. 行財政運営・公共施設等マネジメント
2. シティプロモーション

(オ) 将来像に関する数値目標

2040年度に達成を目指す3つの数値目標を設定し、毎年度、市民意識調査により成果を確認しながら進行管理を行う。

- ・現在幸せだと感じている人の割合
・・・85.0%

- ・岐阜市民であることに誇りを感じる人の割合
・・・65.0%
- ・岐阜市に住み続けたいと思う人の割合
・・・80.0%

(3) SDGsの推進

令和3年度、内閣府より「SDGs未来都市」、「自治体SDGsモデル事業」に選定された。

令和5年9月に、市民の皆さんや、地域団体、学校、企業など、多くのパートナーと協力してSDGsの更なる「啓発」と「行動」を図るため、岐阜市オリジナルSDGsロゴマークを公募により作成した。

SDGsの達成期限である2030年に向けて、多様なステークホルダーと共に持続可能な岐阜市の実現を目指している。

(4) 岐阜連携都市圏

平成26年8月、人口減少・少子高齢社会においても一定の圏域人口を有し活力ある社会経済を維持するための拠点を形成することを目的として総務省は連携中枢都市圏構想推進要綱を制定した。

本市を連携中枢都市とする「岐阜連携都市圏」の形成においても、当該要綱に基づき平成29年6月に本市が連携中枢都市宣言を行い、同年11月には山県市、瑞穂市、本巣市、岐南町、笠松町及び北方町それぞれと連携協約を締結、平成30年3月に「岐阜連携都市圏ビジョン（計画期間：平成31年度～令和4年度）」を策定した。その後、令和3年10月には、羽島市と連携協約を締結し、5市3町で岐阜連携都市圏を形成することとなった。

令和5年3月には「第2期 岐阜連携都市圏ビジョン（計画期間：令和5年度～令和9年度）」を策定し、「多様な地域の個性が輝き、住み続けたいくなる岐阜連携都市圏」を目指し、「圏域全体の経済成長のけん引」「高次の都市機能の集積・強化」「圏域全体の生活関連機能サービスの向上」に資する各種連携事業を連携市町とともに推進している。

2 岐阜市公立大学法人

令和7年4月に岐阜市が岐阜市公立大学法人を設立し、岐阜薬科大学の設置及び管理を法人に移行。岐阜市公立大学法人は、岐阜薬科大学を設置及び管理することにより、学術の中心として広く知識を授けるとともに、深く薬学に関する学理と技術を教授研究し、知的・道徳的に優れ、また応用能力のある人材を育成し、もって地域社会の発展に貢献し、人々の健康福祉の向上に寄与することを目的としている。

(1) 概要

名称	岐阜市公立大学法人
事務所	大学西一丁目25番地4
設立年月日	令和7年4月1日
資本金	3,853,240,600円

(2) 岐阜薬科大学の概要

ア 概要

岐阜薬科大学は、「強く、正しく、明朗に」を建学の精神とし、大学の基本理念として「ヒトと環境にやさしい薬学（グリーンファーマシー）」を掲げ、高度な研究に支えられた薬学教育を通じ、人の健康と福祉に貢献できる有為な薬学専門職業人の育成に努めるとともに、日本の創薬科学研究及び医療の発展に貢献してきた。

これまで1万3千人を超える卒業生及び修了生が、医薬品業界、病院や薬局等の医療機関、行政機関、大学や研究機関等幅広い分野で活躍。薬剤師の輩出など地域を支える専門人材の育成や、海外の大学との姉妹校協定及び学術交流協定に基づく交流等を通じ、グローバルに活躍できる人材の育成に取り組んでいる。

岐阜大学をはじめとした近隣大学との大学間連携や地域の医療機関との連携、地元企業との共同研究の推進等を通じて地域課題の解決に取り組み、教育研究の成果を積極的に地域へ還元し、地域に貢献できる大学を目指している。

イ 沿革

昭和7年	4月	全国初の市立薬学専門学校 岐阜薬学専門学校として創立
昭和24年	3月	学制改革に伴い大学として発足
昭和28年	4月	大学院修士課程設置
昭和40年	4月	大学院博士課程設置
昭和40年10月		三田洞キャンパスへ移転
昭和52年	8月	子の原川島記念演習園開設
昭和57年10月		教育研究総合センター建設 (創立50周年記念)
平成2年10月		生物薬学研究所を建設 (市政100年記念事業)
平成9年	3月	村山記念情報教育センター開設

平成10年	9月	附属薬局を司町に開局
平成11年	3月	薬草園管理舎を新築
平成16年	6月	附属薬局を大学西へ移転
平成18年	4月	薬学教育6年制に伴い、薬学科 (6年制)と薬科学科(4年制) の2学科に改組
平成22年	4月	本部を大学西へ移転
平成29年	4月	薬科学科募集停止、1学科に
令和5年	3月	附属薬局を閉局
令和7年	4月	岐阜市公立大学法人へ移行

ウ 教職員

(令和7年5月1日現在)

学長	教授	准教授	講師	助教
1	26	10	16	15

助手	事務局長	事務系 常勤職員	事務系 非常勤職員	合計
1	1	18	34	122

※このほか、特任教員 21

エ 在学生

(令和7年5月1日現在)

学 科	定員	1回生	2回生	3回生	4回生	5回生	6回生	合計
薬学科	120	121	109	133	121	130	106	720

大学院	定員	I	II	III	IV	合計
博士前期	3	0	2			2
博士後期	5	8	3	11		22
博 士	5	10	14	13	7	44
合 計						68

オ 施設

本部敷地面積(借地)	4,307㎡
三田洞キャンパス敷地面積	40,421㎡
校舎敷地	21,931㎡
運動場敷地	18,490㎡
三田洞学生駐車場(借地)	3,938㎡
薬草園敷地	8,535㎡
子の原川島記念演習園敷地	33,912㎡
本部建物延面積	13,612㎡
三田洞キャンパス建物延面積	21,017㎡
本館	10,641㎡
生物薬学研究所	3,357㎡
(1・2F衛生試験所として使用)	1,557㎡
教育研究総合センター	2,600㎡
体育館	1,976㎡
別館	1,527㎡
附属施設	917㎡

